



令和元年度
「学ぶ力」の向上につながる
学校の実践事例

令和2年3月
滋賀県教育委員会事務局
幼小中教育課

「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン」の概要

目 標

「読み解く力」*の育成に重点をおいて取り組むことにより、子ども一人ひとりの「学ぶ力」を高める。

グローバル化や情報化が一層進展するなど、社会が大きく変化するこれからの時代に、柔軟に対応できる力が必要です。

子どもたちの「学ぶ力」を高めるためには、一人ひとりの基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、文章や情報を正確に読み解き理解する力が大変重要となります。また、人との関係において相手の言葉やしぐさ、表情などから、相手の意図や思いを読み解き理解するなどの力もますます重要となっています。

こうしたことから、「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン」は、「読み解く力」の育成に重点をおいた、子ども一人ひとりの「学ぶ力」を高めることを目指すプランとしました。

また、このような取組は、子どもたちの「生きる力」の育成につながるものと考えています。

*「読み解く力」には、主に文章や図、グラフから読み解き理解する力と、主に他者とのやりとりから読み解き理解する力の2つの側面があるものと捉えています。

学校園、家庭・地域、教育委員会が目的や取組等を共有した
県全体が一体となった取組へ

◆ 「読み解く力」の育成に重点をおいた**3つの視点**からの取組

視点1 学びを実感できる授業づくり

子ども一人ひとりの学力や学習の状況を把握し、その状況に応じて学習内容が定着するよう指導や支援を行うことにより、すべての子どもが「わかった」「できた」と実感できる授業づくりの取組を推進します。

視点2 学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり

子どもたちが、思いやりをもって関わり合い、互いに高め合える、学びに向かう集団づくりを通して、自分の考えや思いなどを、安心して表現できる人間関係を築き、その中で豊かな人間性を育成します。

視点3 子どものために一丸となって取り組む学校づくり

全ての教員が、各校における学ぶ力向上の具体的な取組を共有し、学校全体で組織的に実践する取組を推進します。

◇ はじめに

本冊子は、子どもたちの「学ぶ力」の向上に向けて、「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン」の3つの視点において効果を上げている学校の実践事例を紹介しています。

県内各地域・学校の状況に応じて本冊子を参考にしながら、各学校の「学ぶ力向上策」の改善に活用してください。

視点1

学びを実感できる **授業づくり**

視点2

学ぶ意欲を引き出す **学習集団づくり**

視点3

子どものために一丸となって取り組む **学校づくり**

◇ 「学ぶ力」の向上につながる学校の実践事例

視点1

- ① ICTを効果的に活用した授業づくり ～「し・たい・もん」な授業を目指して～
草津市立志津南小学校 …… 2
- ② 学ぶ意欲を引き出し、学びを実感できる授業の工夫 ～習熟度別少人数指導の取組～
愛荘町立愛知中学校 …… 4
- ③ 生徒の学びの姿を基にした授業改善 ～生徒の学びを見取る取組を通して～
近江八幡市立八幡中学校 …… 6

視点2

- ④ 道徳性を意識した仲間と「つながる」集団づくり ～子どもたちの自主的・実践的な取組を目指して～
守山市立吉身小学校 …… 8
- ⑤ 中学生チャレンジウィークを柱にしたキャリア教育 ～全員が輝く良質な学習集団づくり～
東近江市立船岡中学校 …… 10

視点3

- ⑥ 子どもの力で発展し続ける学校づくり ～子どもたちと教員が一体となって取り組む仕組み～
彦根市立佐和山小学校 …… 12
- ⑦ 学校全体で取り組む幼小の接続 ～幼児教育での学びを踏まえた組織的な授業改善～
栗東市立大宝西小学校(大宝西保育園・大宝西幼稚園) …… 14
- ⑧ メンター方式を取り入れたOJTの推進 ～組織の中で成長し続ける教師を目指して～
大津市立瀬田北中学校 …… 16
- ⑨ 授業改善と集団づくりをつなぐ組織的な取組 ～視点1と視点2をつなぎ、同僚性を高める～
豊郷町立豊日中学校 …… 18

基礎・基本の定着

- ⑩ 基礎・基本を身に付けるための計画的なガッテンプリントの活用
長浜市立虎姫中学校 ・ 甲賀市立油日小学校 …… 20

視点1

ICTを効果的に活用した授業づくり
～「し・たい・もん」な授業を目指して～

「し・たい・もん（主体的・対話的・問題解決的）」な授業づくりに取り組んでいます。

校内研究として「し・たい・もん」な授業づくりをテーマに、「全教員・全学年・全教科」でICTを効果的に活用して授業改善を進めています。

活用したい効果的な取組

ポイント1 情報を共有する場面でのICTの活用

ICTを活用した対話的な学習の活性化

- ・言葉だけでなく、写真や動画を電子黒板に映し出して発表することで、視覚化を図る。
- ・仲間の考えを、一人ひとりのタブレットに送信することで共有化を図る。

ICTは、各教科等の学習を効果的に行うための「手段」です。

ICTの有効活用により、授業の質を高め、効率的に学習を進めることができ、子どもの考える時間を充分にとることができます。



ポイント2 子どもの意欲を高める場面でのICTの活用

興味・関心や問題意識を高める導入の工夫

- ・大型提示装置で教材等を示すことで、子どもの興味・関心を高める。
- ・挿絵や写真等を拡大したり縮小したりすることで、子どもが取り組むべき問題を焦点化する。

○学校の紹介

	草津市立志津南小学校
学級数	29学級
児童数	742名

校内研究のテーマ

話す・つながる・深める授業を目指して、
教師の授業力アップ2

「し・たい・もん」な学習スタイルで、授業をデザインできるように、職員がグループになって授業づくりについて学び合い、実践している。

また、普段の授業で生かせるスキル(板書等)や、ICT機器活用、図画工作科の作品作り、音楽科の歌唱指導等の研修を教職員が互いにワークショップ型で行っている。



学校教育目標

こころゆたかに ゆめをはぐくむ

合言葉 ～人にやさしく 力をあわせ チャレンジする 南っ子～

学校教育目標を支える4つの柱

- ・確かな学力を育てる教育
- ・やさしさの質を高める教育
- ・集団・居場所・絆を生み出す教育
- ・一歩踏み出す勇気を育てる教育

すべての子どもたちが、自分のやりたいことを見つけて大きなゆめやあこがれを抱き志をもって自らの人生を切り拓いていく資質と能力を育む。

ポイント1

情報を共有する場面でのICTの活用

○考え方をわかりやすく伝える【第1学年算数科「かさくらべ」】

【今日のはてな】

見ただけではどっちが多いかわからない水の量は、どうやって比べるといいかな？



1つのカップに入れて、線を引いて比べてみよう！

どうやって比べているのか、見えにくいな…。



比較しているところをタブレットで撮影する。



撮影した動画を大型提示装置に映し出し、考え方を話し合う。

視覚化

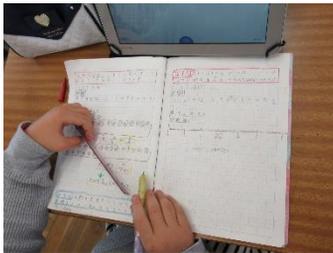
○学級全体での話し合いに生かす【第3学年算数科「小数」】

【今日のはてな】

どうすれば、小数の大きさ比べができるだろう？

3.1? 2.9? ?

この考え方をもとに、学級全体で話し合おう。



共有したい考え方をした児童のノートを撮影する。

ノートを見せながら説明してくれるとわかりやすい！

なるほど！そうやって考えたのか。



撮影したノートの写真を全員のタブレットに送信し、共有した上で話し合いを行う。

共有化

ポイント2

子どもの意欲を高める場面でのICTの活用

○子ども自身が問題を見いだす【第3学年社会科「工場の仕事」】



工場の中を見てみましょう！

工場の様子わかる映像資料



何が作られているのだろう？ タンスかな？自動販売機かも！

冷蔵庫だ！すごいスピードでたくさん作られていますすごい！



機械がいっぱいあるけれど、危なくないのかな？



【今日のはてな】

工場では、どうして安全に大量の冷蔵庫を作ることができるのだろう？

焦点化

視点1

学ぶ意欲を引き出し、学びを実感できる授業の工夫 ～習熟度別少人数指導の取組～



生徒の主体的な学びを引き出すために「学び方」の育成に取り組んでいます。

生徒一人ひとりの「学びたい」意欲を引き出す取組をとおして、生徒に「わかった」「できた」を実感させる授業改善の取組を進めています。

活用したい効果的な取組

ポイント1 生徒の困り感に寄り添った学習集団の編成

まずは、一人ひとりの生徒の実態を把握

- ・年度始めは一斉授業等により、生徒の学習状況や学習に対する意識等の実態を把握
- ・生徒の学習への困り感に寄り添いながら、習熟度別少人数指導へ移行

ポイント2 生徒の学習状況に応じて「学ぶ力」を育てる工夫

「学ぶ力」につなぐ「学び方」を育成する取組

共通実践

- ・生徒の学ぶ意欲をひき出す導入の工夫
- ・自分たちで問題を見つけて解決しようとする問題解決学習の実践
- ・学びを実感できる時間の設定

生徒の気持ちに寄り添った授業づくりが大切です。



○学校の紹介

	愛荘町立愛知中学校
学級数	14学級
生徒数	400名



学校教育目標

自ら学び 考え
他を思いやる
心豊かで
たくましい生徒の育成

校内研究のテーマ

生徒が自ら「学ぶ力」の育成

～生徒の学ぶ意欲を引き出し、学びを実感できる授業の工夫～

これからの変化の激しい社会を生き抜くために、生徒自らが課題を見つけ、他者と協働しながら課題を解決していく能力が必要である。

このような力を育むために、生徒の学ぶ意欲を引き出すことや、他者との関わりの中で学びを実感するような課題解決的な学習を積極的に設定することで、生徒の「学び方」を育成することを目指し、実践に取り組んでいる。

※個に応じた少人数指導推進事業：研究指定校(R1)

ポイント1

生徒の困り感に寄り添った学習集団の編成

アンケートやレディネステスト、授業の生徒の学びの様子等で実態を把握



年度始め(一斉授業等)



学習が進み、生徒の習熟の状況に差が出て、生徒の困り感が見え隠れ...

アンケートや生徒との相談をもとに...

先生や友達に相談しやすい!



生徒の学習状況に応じた指導ができる!

習熟度別少人数指導へ

ポイント2

生徒の学習状況に応じて「学ぶ力」を育てる工夫

第1学年数学科での実践事例～回転体の体積～

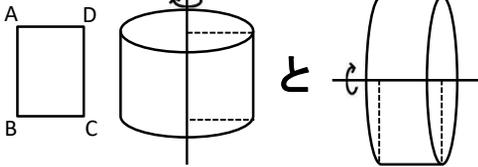
○生徒の学ぶ意欲をひき出す導入の工夫 ～学習集団の状況に応じた学習内容や導入の工夫～

どちらの体積が大きいかな?



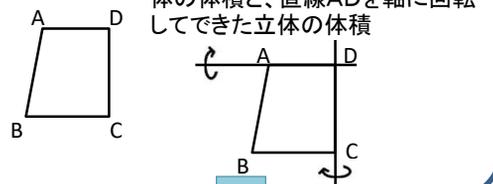
<Aコース>: 長方形を回転

直線ABを軸に回転 直線ADを軸に回転



<Bコース>: 台形を回転

直線DCを軸に回転してできた立体の体積と、直線ADを軸に回転してできた立体の体積



発問とゴールは同じ

直線を軸として回転させてできる立体の体積を求めることができる。

○自分たちで問題を見つけて解決しようとする問題解決的な学習の実践

～新たな「問い」をもたせる発問の工夫～



体積は同じだと思ったけど...



こんなに違うんだね



どんな図形でも同じことがいえるのかな

軸を変えても体積が変わらない図形ってあるのかな?



1人で考えたことを

仲間と解決

新たな「問い」をもつ

次の学びの原動力に

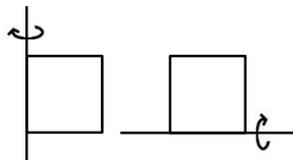
○学びを実感できる時間の設定

～学びの“振り返り”から家庭学習へつなぐ工夫～

・学びの“振り返り”だけでなく、授業中に感じた新たな「問い」についても振り返る。

「学び方」の育成

「学ぶ力」へ



正方形は軸を変えて回転させても体積は変わらないね。このような図形は、ほかにもあるかもしれないから家で考えてみるよ。



視点1

生徒の学びの姿を基にした授業改善

～生徒の学びを見取る取組を通して～



全校生徒の「授業評価アンケート」を活用した授業改善に取り組んでいます。

全校生徒の「授業評価アンケート」や全職員によるG-OJTを活用することにより、校内研究に対する教員のモチベーションを高め取り組んでいます。

活用したい効果的な取組

ポイント1 生徒の「授業評価アンケート」による取組の検証

生徒からのフィードバックを授業改善に生かす

- ・各教科の授業について、自由記述を含むアンケートを学期末ごとに全校生徒に実施
→ 生徒の「授業評価アンケート」の結果をもとに、教員一人ひとりが自らの授業を振り返り、授業改善の手立てを考える機会とする。

ポイント2 全職員によるG-OJTを活用した取組

授業改善にチームで主体的に協働する雰囲気づくり

- ・滋賀県総合教育センターの教職6年次(G-OJT)研修の方法を校内研究に活用
- ・協議を活発にするためのツールの活用

グループ単位でOJTの活動により討議することで、教員のモチベーションを高めたり、教員の主体性を引き出したりすることにつながります。



○学校の紹介

	近江八幡市立八幡中学校
学級数	23学級
生徒数	600名



校内研究のテーマ

「主体的・対話的で深い学びを実現する指導法の工夫」
～生徒の学びを見取る取組を通して～

昨年度、「個→(他者との)つながり→個」の流れを授業改善のイメージとして設定し、研究を推進した。授業の「めあて」を提示し、「まとめ」や「振り返り」の時間を確保した授業を実践したが、生徒の意識に大きな変化が見られなかった。

このようなことから、今年度は、生徒の学びの姿が「主体的・対話的で深い学び」となっているかという視点で授業を改善していく必要があると考え、生徒の学びの姿から指導法の工夫を図ることに取り組んでいる。

「校訓 切磋琢磨」

◇学校教育目標

『ふるさと近江八幡に愛着と誇り
をもち、自ら心の器づくりに励み、
未来を切り拓く生徒の育成』

ポイント1

生徒の「授業評価アンケート」による取組の検証

- 「**授業評価アンケート**」 全教科の授業について、自由記述を含む4件法のアンケートを学期末ごとに全校生徒に実施

(実際のアンケートより抜粋)

	①あなたの1学期の授業の参加の仕方はどうでしたか？	②授業はよくわかりましたか？	③教科の先生に対して、知ってほしいこと等があれば具体的に書いてください。	
			☆よかったところ	★お願いしたいこと
国語	4 - ② - 2 - 1	4 - ② - 2 - 1	語句の意味など補足が有りここ	作文の書き方が苦手なので教えてほしい
社会	4 - ② - 2 - 1	4 - 3 - ② - 1	毎日小テストか(復習)みる所	留めたことを1-1にまとめる時間があるといい

4:よくがんばった・よくわかった 3:どちらかと言えばがんばった・どちらかと言えばわかった
2:どちらかと言えばがんばらなかった・どちらかと言えばわからなかった 1:がんばらなかった・わからなかった

➤ 生徒の声を教員へフィードバック

教員一人ひとりが自らの授業を振り返り、授業改善の手立てを考える機会とする。

- ① 教科担当ごとに質問項目の数値と自由記述の内容をまとめて、各教科担当に渡す。
- ② 「授業評価アンケート」結果を受けて、今後、どのように授業を改善していくかを具体的に考え、改善を行う。

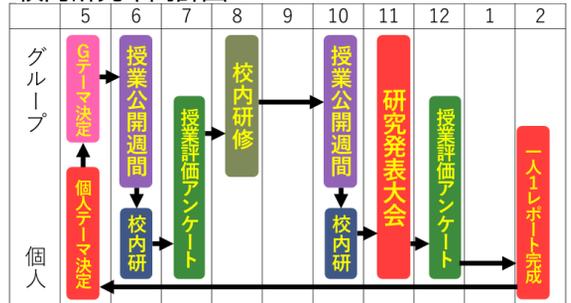
ポイント2

全職員によるG-OJTを活用した取組

○ 教職6年次(G-OJT)研修方法を活用

- ◆ 全教員を4名ずつの9グループに分け、グループ単位でOJT活動を進める。
【具体的な活動】
指導案検討、授業参観、参観後の協議会等
- ◆ 空き時間を利用して授業参観を行い、参観後にグループごとの研究協議を行う。
- ◆ 校内研究前の1週間を「授業公開週間」として設定し、グループを越えて自由に授業参観する。

校内研究年間計画



➤ 週1回、研究推進委員会を開催し、研究の進捗状況を把握する

○ 協議を活発にするためのツールの活用

- ◆ グループでの協議用シートとして、丸い段ボールを使って協議をする。ひざを突き合わせ協議することで、メンバーの距離感が縮まり、グループの一体感につながる。
- ◆ 「同心円チャート」や「Yチャート」等の思考ツールも併せて使用することにより、効果的な協議につながる。



視点2

道徳性を意識した仲間と「つながる」集団づくり

～子どもたちの自主的・実践的な取組を目指して～



道徳科と特別活動を関連付けながら、年間を通じて、よりよい集団づくりを進めています。

4つの心(自分からよいことを・人にあたたかく・みんなのために・いのちを大切に)を意識し、学級活動や異学年活動、全校活動を通して、「仲間とのつながり」を目指した取組を進めています。

活用したい効果的な取組

ポイント1

4つの心を意識した集団づくりの取組

仲間とつながる「居心地のよい温かい集団」づくり

- ★4つの心＝「自分からよいことを」「人にあたたかく」「みんなのために」「いのちを大切に」
- ・行事等に取り組む際、子どもたちが4つの心から選んで目標を設定する。
- ・目標を意識して活動に取り組んだり、活動後にそのことについて振り返ったりする。

年間を通じて、子どもたちが常に4つの心を意識して活動に取り組むようにしています。!

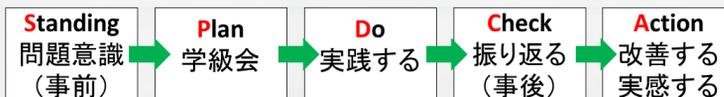


ポイント2

「SPDCAサイクル」を活用した学級会の取組

道徳性を意識して、子どもたちが自主的・実践的に取り組む学級会

・Standing → Plan → Do → Check → Action → (次の実践) のサイクルを大切にする。



○学校の特徴

	守山市立吉身小学校
学級数	30学級
児童数	699名

校内研究のテーマ

自己の生き方について 考えを広げ、深める道徳教育
～道徳が楽しみになる子どもの育成～

特別の教科 道徳の授業研究を通して、「道徳が楽しみになる子どもの育成」を図ることで、自己の考えを広げ、深めるための有効な指導法を探っている。

特別活動において、自己の生き方について考えを広げ、深めたり、道徳的価値を再認識させたりするため、道徳性育成に関わる実践的、体験的な活動の充実に取り組んでいる。



学校教育目標

“あふれる笑顔 やる気いっぱい
吉身っ子”の育成

よく考え進んで学ぶ子
しっかり最後までやりぬく子
みんなを思いやる子

ポイント1

4つの心を意識した集団づくりの取組

○学校全体で育みたい道徳性を子どもが常に意識して取り組む工夫



各教室に掲示し、行事等の際は、この4つから選んで目標を設定します。

夢タイム／ペアdeつながりタイム

クラスの仲や、ペア学年(異学年)の仲を深める場としての取組

- ・話し合い
- ・さいころトーク
- ・ゲーム
- ・ミニ学級会 等

「よしみっこ集会」

「みんなでよしみっこ集会をつくろう」という気持ちを育てる場としての取組

- ・1年生歓迎会
- ・6年生を送る会 等

「よしみっこ4大フェス」

「クラスの集団、吉身小の集団力を高め合う場」としての取組

【4大フェス】

- ①運動集会
- ②運動会
- ③長縄集会
- ④ペア学年交流会

例えば、運動会で「人にあたたかく」を選んだ児童は、「応援で低学年にもやさしく伝える」「ダンスが苦手な友だちに声をかける」「組体操で仲間を励ます自分を目指す」等の目標を設定して、運動会の練習に励みます。また、活動後は目標に沿って振り返ります。



ポイント2

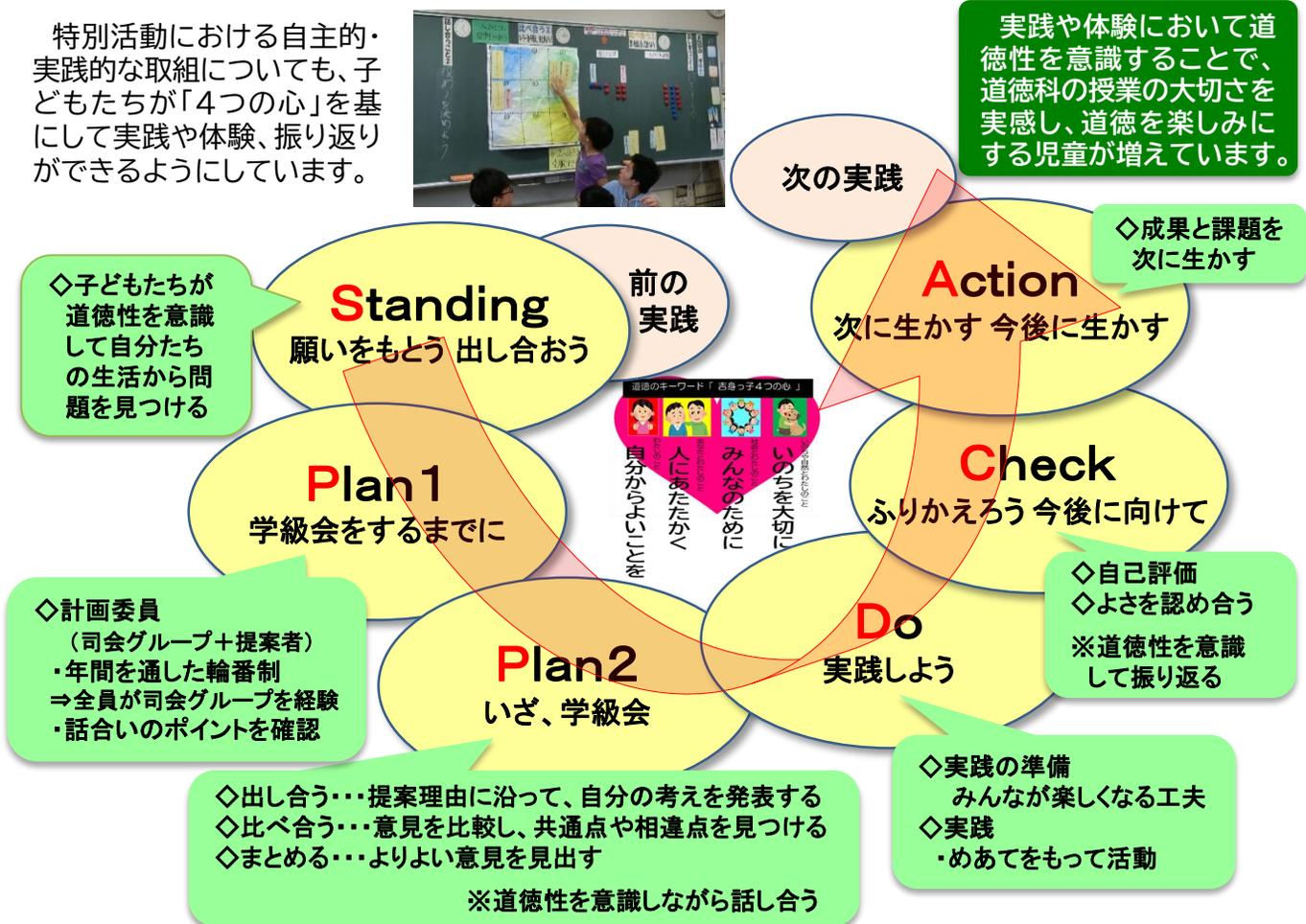
「SPDCAサイクル」を活用した学級会の取組

○道徳性を意識した実践・体験の充実(自主的・実践的に取り組む学級会)

特別活動における自主的・実践的な取組についても、子どもたちが「4つの心」を基にして実践や体験、振り返りができるようにしています。



実践や体験において道徳性を意識することで、道徳科の授業の大切さを実感し、道徳を楽しむにしている児童が増えています。



視点2

中学生チャレンジウィークを柱にしたキャリア教育

～全員が輝く良質な学習集団づくり～



体験を充実させるとともに、生徒が力を発揮できる場面を設定して良質な学習集団づくりにつなげます。

中学生チャレンジウィークをキャリア教育の中心に据えて取り組み、生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成するとともに、互いの違いを認め、高め合える学習集団を育んでいます。

活用したい効果的な取組

ポイント1 チャレンジウィークを中心としたキャリア教育の充実

年間を見通して、学習を積み重ねる

- ・マナー講座 ・職業講話
- ・新聞、作文づくり ・お礼状 ・発表会(学年・全校)

生徒が主体となった学年集会

- ・職場体験がんばろう集会(事前)
- ・職場体験発表会(事後)

チャレンジウィークを5日間の体験だけでなく、それまでに「何を学ぶのか」、その後「学校生活や人生設計にどう役立てるのか」を大切にして学習を積み重ねています。

ポイント2 チャレンジウィークでの学びをつなぐ取組

校外学習での体験により、学びを深める

- ・海遊館での体験学習プログラムに参加
- 働く上で必要となる能力について学習



○学校の紹介

東近江市立船岡中学校	
学級数	8学級
生徒数	182名

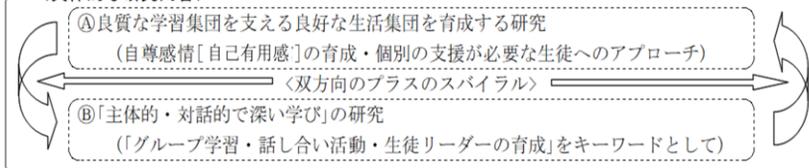
校内研究のテーマ

豊かな人間性と自立をめざす生徒の育成

～自尊感情を育み基礎学力の定着と個々の生徒に応じた支援のあり方～

自尊感情を育て基礎学力の定着を図ることは、継続して取り組むべき課題である。これまでの研究を引き継ぎ、特別な支援を要する生徒に焦点を当てつつ、将来の自立に向けた教育の実践を目指して進める。

<具体的な研究内容>



「校訓 自主・自立・自治」

◇学校教育目標

『未来を拓き未来に生きる、心豊かでたくましく自立する生徒の育成』

令和元年度 キャリア教育優良教育委員会・学校等文部科学大臣表彰 受賞

ポイント1

チャレンジウィークを中心としたキャリア教育の充実

4月～

職場体験に向けて

目的の確認・体験先事業所の希望調査

おじぎの角度にも
こだわらんだ!



5月～

外部講師を招いて

「職業講話」

インターンシップにより勉強と仕事の両立を目指している高校の教頭先生の講話を聞く。

人間力を高め、生きる力と社会人としての知恵を身に付け、将来に活躍できる素地を培っている高校生の様子を知り、働くことへの意識を高める。

働くって、お金をもらう
だけではないんだね。

「マナー講座」

「なぜ働くのか?」「働くということはどういうことか?」「職場体験に行くまでに身に付けておかなければならないマナーは?」など社会生活の中で必要になってくることを知るとともに、『挨拶の仕方』『敬語の使い方』『返事の仕方』を講師のエピソードを交えた話から学ぶ。

6月～

生徒リーダーを中心とした「職場体験がんばろう集会」の実施



事前学習を生かして、学年全員で
中チャレを成功させよう!

目標を立てて、自ら積極的
に取り組めます!

- ①生徒リーダーの司会進行で進める。
- ②生徒リーダーより4月からの取組を確認する。
- ③学年全員で『宣誓』→宣誓書に記入する。

※リーダーを核とした学習集団の育成を全校で進めています。

職場での5日間の体験活動

市内外の事業所で、2年生の全生徒が職場体験を行う。地域の人々が実際に働いている姿を見ることや、自分自身が5日間の体験をやり遂げることで、働くことの意義を知り職業観を高める。

いつもと違う環境の中で、
様々な『働く人』と触れ合
いながら頑張ります!



7月～
9月

事後学習

- お礼状
- 新聞、作文づくり
- 学年発表会
- 文化祭での発表



それぞれの職場で体験を通して学んだことを発表し合いました。自分の学びと友達の学びとのつながり
を考える中で、働くことの意義につ
いて、深く考えることができました。



働くことはたいへんだ
けど、やりがいや喜びを
たくさん感じました!

ポイント2

チャレンジウィークでの学びをつなぐ取組

3.とにかく、感動する



アイデアを生む企画力だ
けでなく、仲間との協力や、
他の企業との打合せなど
の調整力が必要なんだ!

校外学習の海遊館での体験学習プログラム 「アカデミープラス」に参加

- ・飼育係の視点で、働く上で必要になる「企画力」「判断力」「調整力」などの能力について学ぶ。
- ・バックヤードツアーを通して、表からは見ることができない設備や施設の管理について学ぶ。

★チャレンジウィークでの学びを他の学習につなげることで、学校での学習が将来に必要な力を身に付けるためにあることや、互いの違いを認め、高め合える集団の大切さを生徒が実感することができました。



視点3

子どもの力で発展し続ける学校づくり

～子どもたちと教員が一体となって取り組む仕組み～



子どもの願いから学校文化を生み出し、
持続・発展する学校づくりに取り組んでいます。

「あこがれ」をカギに、子どもの主体性によって学校文化を生み出す仕組みづくりや、それを支える教師の役割を持続的・発展的に改善することで、子どもたちと教員が一体となった学校づくりを進めています。

活用したい効果的な取組

ポイント1 PDCAサイクルによる持続的・発展的な取組

目の前の子どもたちに必要な力を育む教師の役割

- ・子どもの実態把握に基づくこれまでの取組の改善と実践後の見直し

ポイント2 子どもの主体性を大切にしたカリキュラム・マネジメント

子どもたちの主体性から生み出す学校文化

- ・「あこがれ」を生み出す仕組みをつくる。
- ・「あこがれ」をもとに伝統を受け継ぐ実践を重ねる。
- ・仕組みが定着し、新たな伝統が生まれる。

「安心して自分らしさを発揮できる、子どもたちの居場所となる学校をつくりたい」という願いから、子どもたちと教員が一体となった学校づくりに取り組んでいます。



○学校の紹介

	彦根市立佐和山小学校
学級数	23学級
児童数	604名

校内研究のテーマ

これからの時代を生き抜く力を育む佐和山教育 ～学びのプロ・教えるプロ集団の育成～

これまでの教育を見つめ直し、これからの社会を生き抜くために必要な力を子どもたちが身に付ける教育について研究し、実践にしている。

<研究内容>

- ① 変えるべきものと変えざるべきものを見極める「佐和山メソッド」の見直し
- ② SWOT分析による子どもの強みと課題などの実態把握
- ③ これからの時代に必要な力の検討
- ④ 授業検討と実践、見直し



【学校教育目標】

未来を創る 心豊かでたくましい 佐和山っ子の育成
～Think Globally Act Locally～

大賞
大賞

一人一人が輝く 日本一あたたかい学校の創造

自尊感情
自分を大切に
できる子

他者理解
人を大切に
できる子

集団認識
みんなを大切に
できる子



令和元年度



独立行政法人教職員支援機構



ポイント1

PDCAサイクルによる持続的・発展的な取組

○ 子どもたちの実態把握に基づく
これまでの取組の改善と実践後の見直し



学校の強みは？課題は？



強みとして生かせることは？
課題解決に必要なことは？

実践の成果は？課題は？
どのような力が付いたか？
必要な力を育むためには？

目の前の子どもたちに必要な力を学校全体で育むために・・・

ポイント2

子どもの主体性を大切にしたカリキュラム・マネジメント

○ 「あこがれ」をカギに、子どもが主体的に学校文化を生み出す仕組みづくり



成功のカギは「あこがれ」

「あこがれ」を大切にすることで、「やらされる」のではなく、楽しみながら「やりたくなる」持続性のある取組にしています。

5年生「佐和山のリーダーになろう」【総合的な学習の時間他】

5年生の3学期から、学校のリーダーになる準備を始めます。6年生の活躍を想起したり、インタビューしたりする活動を通して、「あこがれ」をひき出し、リーダーになるという意識を高めます。



目標をもつ

学年集会を開き、よりよい学校にするための具体的な方策を何度も話し合い、実施しました。

6年生「自分たちの力でよりよい学校にしよう」【総合的な学習の時間・特別活動他】

もともとあった学校の強みやよさを生かしながら、子どもたちの「よりよい学校にしたい！」という思いをもとに、子どもたちの工夫やアイデアで取組内容を改善し、学年を越えた取組として実践します。



あったか応援

工夫・アイデアを試す



そうじ革命

学校文化を生み出す

★ 下学年
★ 期待感



「佐和山の伝統を受け継ぎたい。」

伝統をつなぐ

「私たちがしてきたことを受け継いで、もっと良い学校にしてほしい。」

6年生が下学年の質問に答えたり、アドバイスをしたりします。



次年度へ
スパイラルアップで
持続発展！！

視点3

学校全体で取り組む幼小の接続

～幼児教育での学びを踏まえた組織的な授業改善～



幼小で大切にしたいことを校内研究の重点として、学校全体で取り組んでいます。

園での保育を参観した小学校教員が、子どもの主体性を大切にしたい遊びの中の豊かな学びを実感し、授業改善のキーワード(目的意識、試行錯誤、表現)を校内研究の重点として、全校で取り組んでいます。

活用したい効果的な取組

ポイント1 課題を踏まえた、めざす子どもの姿の共有

「自ら考える」「言葉で伝える」を大切にしたいカリキュラムの編成

- ・5歳児と1年生の現状と課題についてのアンケートの実施
- ・アンケート結果から見てきた課題を踏まえた接続期カリキュラムの編成
- ・実施した接続期カリキュラムの検証・改善

ポイント2 学びをつなぐ共通のキーワード

共通のキーワードを重点にした校内・園内研究

- ・「目的意識をもつ」「試行錯誤する」「表現する」のキーワード
- ・キーワードを視点にした校種を越えた教員同士の語り合い

一部の教員だけの取組になりがちな幼小接続を学校全体の取組にすることで、幼児教育で育まれた資質・能力を小学校教育でさらに伸ばしていくことができます。

幼児教育の遊びの中の豊かな学びには、小学校の授業改善のヒントがたくさんあります。



○学校の紹介

栗東市立大宝西小学校	
学級数	20学級
児童数	466名



校内研究のテーマ

心動かし いきいきと学ぶ大西っ子を目指して
～自ら学び考える力を育てる授業の在り方を探る～

子どもたちが心を動かし、いきいきと学ぶには、幼児教育のどの部分に自ら学び考える力を育てる要素があるのかを踏まえた上で、小学校教育を考えていく必要がある。

幼児期の「遊びの中の学び」を小学校の低学年における学びの基礎につなげ、さらには、各学年の「学びに向かう力」につなげる必要があると考え、研究テーマを設定し、実践に取り組んでいる。

※ 学びに向かう力推進事業:研究指定校園(H30・R1)
(大宝西保育園・大宝西幼稚園・大宝西小学校)

学校教育目標
温かて たくましい 大西っ子

＜めざす子ども像＞

- 元気<体>
- 心身ともにたくましく、最後までやりぬく子
- みんなと<徳>
- 自他ともを大切に、支え合い高め合える子
- よく学ぶ<知>
- 自ら学び、考え、行動できる子

ポイント1

課題を踏まえた、めざす子どもの姿の共有

○ 実態調査に基づき、課題の改善に向けた接続期のカリキュラム

5歳児と1年生の現状と課題についての実態調査

幼稚園・保育園・小学校の職員に近年の幼児・児童の実態に関するアンケート調査を行いました。

【調査内容】「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をもとに、

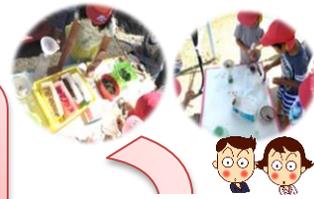
- ①人との関わりに関すること
- ②学びに向かう力に関すること
- ③文字・数・思考に関すること
- ④規範意識に関すること
- ⑤生活習慣に関すること

➡ 実態調査から、「自ら考える」「言葉で伝える」に課題のあることが明確になりました。

課題を踏まえた接続期カリキュラムの検討



幼児教育で大切にしていることを踏まえて小学校の授業を改善していくことで、子どもたちの学びや育ちをつなぐことができると考えました。



互いの保育・授業の参観

実施した接続期カリキュラムの検証・改善

接続期のカリキュラムは、実践した後、子どもたちの学びの姿に基づいて、検証し、改善策を話し合います。

幼児期の遊びの中には、たくさんの豊かな学びがありました。さらに、生活リズム、環境の構成や教師の関わり方など、小学校の授業につながるポイントが見つかりました。

ポイント2

学びをつなぐ共通のキーワード

目的意識をもつ

試行錯誤する

表現する

自ら学び考える力を育てる要素

○ 共通のキーワードを重点にした 校内研究と園内研究

目的意識をもつ

- ・学習課題を把握し、解決への見通しをもつ。または、子ども自ら課題を設定する。
⇒ 必然性のある動機付けや方向付けを大切にする。



試行錯誤する

- ・課題解決に向けて、自分なりの方法で繰り返し追究する。情報の収集や分析。
⇒ 学習環境、指導法や手立ての工夫を行う。



表現する

- ・交流や発表、書くなどの表現活動を通して、新たな自分の考えをつくる。
⇒ プロセスや学びの深まりを想定し、具体的な手立ての工夫を行う。



※これらを学びのプロセスに位置付ける。また、このプロセスを何度も繰り返しながら、子どもたちが思いを実現していくことこそが学習の深まりや質的な高まりになると捉える。

視点③

メンター方式を取り入れたOJTの推進

～組織の中で成長し続ける教師を目指して～



若手教員を中心として、学校全体でOJT研修に取り組み、学校運営の充実を図ります。

若手教員を中心として、実践的な研修内容を構成し、研修で得た知識や理論やノウハウ等を日々の実践に生かすことにより、全員の指導力の向上につなげ、より一層効果的な教育活動を進めています。

活用したい効果的な取組

ポイント1 学校全体の取組となる工夫

初任者研修と校内研修を有機的につなぐ

- ・メンター研修*を核とした校内研修の体制づくり
- ・メンター・メンティー双方にとって有意義な活動を目指す

* メンター研修とは、メンター方式によるOJT研修のこと

メンター方式による研修を、ミドル層・ベテラン層以外に若手教員にも積極的に依頼し、若手教員が相互に学び合えるようにしています。そうすることで、教員全体の力量アップにつながります。



ポイント2 組織内の人材を活用したOJT研修

多様な教員の知識や経験の共有

- ・年度始めにメンターとなる教員を選定
- ・コーディネーターによる研修運営(研修日時・内容調整、司会等)
- ・若手教員同士で育成(2・3年次→初任者)

○学校の紹介

大津市立瀬田北中学校	
学級数	35学級
生徒数	1,023名



【学校教育目標】
 考動(考え動く生徒の育成)
 【めざす生徒像】(考え動く生徒として)
 意欲的であれ! やさしくあれ! たくましくあれ!

校内研究のテーマ

生徒が主体的に学ぶ授業をめざして
 ～つきたい力を明確にし、「わかる」「できる」が実感できる授業づくり～

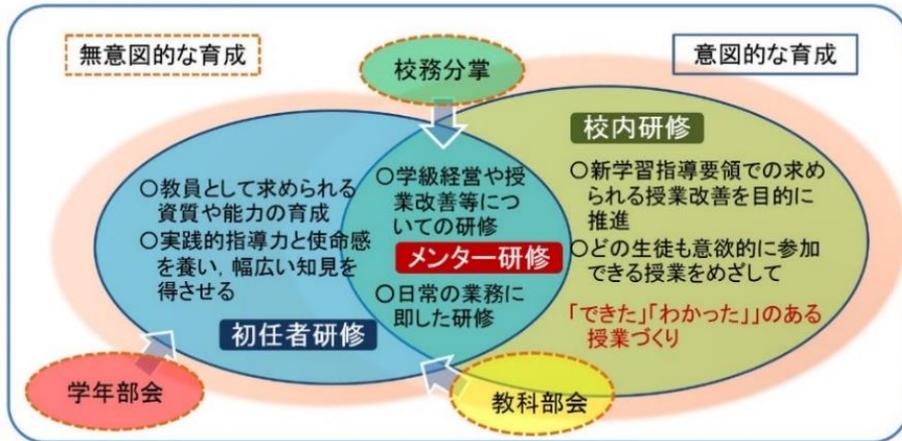
これまで取り組んできた「学び合い」の手法も大切にしながら、「主体的・対話的で深い学び」がある授業を追究していきます。授業での生徒の主体的・対話的な学びが、生徒自身の深い学びへと深まっていくために、教師の指導には何が必要なのかを全職員で追究していくことに取り組んでいます。

※教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業:研究指定校(H28～R1)

ポイント1

学校全体の取組となる工夫

○メンター研修が初任者研修と校内研修を有機的につなぐ



初任者に比べて2年次、3年次教員の研修の場の少なさをメンター研修で解消します。
メンターも若手教員に研修することで、教育の質的改善につなげたり、教育の原点を再認識したりします。



ポイント2

組織内の人材を活用したOJT研修

○多様な教員の知識や経験の共有【メンター研修の事例(一部)】

6月(一般研修)

- テーマ:「生徒指導について」
- メンバー:生徒指導主事(校内指導教員) 初任者・講師・教育実習生

【メンター研修】

→年間10回以上開催

【主な研修内容】

- ①基礎的教養 (人権・防災・小中連携・教育目標など)
- ②学級経営
- ③生徒指導・進路指導
- ④教科指導
- ⑤道徳・学活のあり方
- ⑥総合的な学習の時間

○教壇に立って2ヶ月ほどを経験する中で、生徒指導についての講話は実感を伴いながら聴くことができた。

○生徒指導の意義については、教員採用試験に向けて学習していた内容を思い出し、生徒が自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すことを学び直すよい機会になった。



8月(一般研修)

- テーマ:合唱指導について
- メンバー:教頭・音楽科担当教員・初任者 講師・初任者拠点校指導教員ほか

○合唱コンクールに向けた合唱指導について、担任として大切にすべきことを考えられた。

○合唱指導を実際に受けてみて、姿勢や呼吸法、発声、発音、歌詞が表す情景や気持ちについて、指導のポイントがよくわかった。



参加教員により、研修の学びをまとめて、校内メールにて全体共有します。
ミドル層やベテラン層も若手教員とともに学び合い、組織全体の指導力の向上を図ります。



【OJT(On the Job Training)】

職場での日常の業務遂行を通じて、必要な資質能力を意図的・計画的・継続的に育成すること

【メンター方式(によるOJT研修)】

知識や経験の豊かな先輩教員(メンター)が、若手教員(メンティー)との継続的な対話や助言を通して、仕事における不安や悩みの解消を図りながら、自発的な成長を支援する研修の手法

視点3

授業改善と集団づくりをつなぐ組織的な取組

～視点1と視点2をつなぎ、同僚性を高める～



校内研究の組織と進め方を工夫することにより、
授業改善と集団づくりをつなぐ取組になります。

「学年」の教員を中心とした組織を活性化することにより、生徒理解と、生徒の姿をもとにした教科の枠を越えた授業改善を進めています。

活用したい効果的な取組

ポイント1 学年部会と教科部会の2つの軸による取組

同僚性を高め、効率的な取組

- ・学年の組織を有効活用することにより、授業のない時間を利用し同僚の授業を参観する「すきま校内研究」を実施する等、取組の日常化につながる効率的な取組を進める。
- ・学年の教員間の交流や情報交換が増えることで、教員同士がつながる場となり、教員の同僚性が高まる。

ポイント2 生徒理解につながるPDCAサイクルの取組

「学年学習集団づくりプラン」の取組

- ・「学年学習集団づくりプラン」の更新によって、学期ごとにPDCAサイクルを実施する。

同じ子どもを担当している学年の組織をベースに取り組むことで、各学年の実態を踏まえた「集団づくり」の観点をもって授業改善に取り組むことになります。



○学校の紹介

	豊郷町立豊日中学校
学級数	10学級
生徒数	209名



校内研究のテーマ

「確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ生徒の育成」
～わかった・できたを実感できる授業を通して～

生徒が自らの目標に向かってたくましく生きていくためには、授業を通して、他者と協働する中で新たな自分を発見していく経験や自分で考え判断し行動する経験を、多く積むことが必要である。

特に、主体的に学ぶ姿勢を養うことは、生涯にわたり学び続けていくためにも重要であると考え、研究テーマを設定し、実践に取り組んでいる。

◇学校教育目標
『夢と誇りをもち、
心豊かでたくましい生徒の育成』

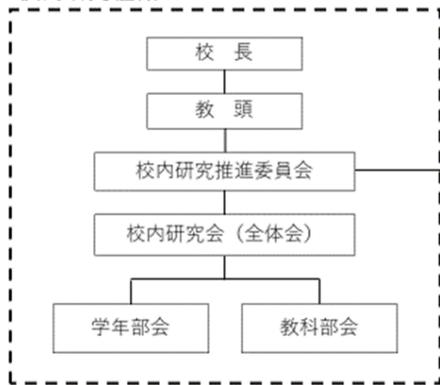
○豊日中学校 合い言葉
自分を愛し、友人を愛し、
学校を愛する生徒

ポイント1

学年部会と教科部会の2つの軸による取組

○研究組織と取組の内容

校内研究組織



学年部会による取組では、「集団づくり」と「授業づくり」の関連を図り、教科部会では、教科としての専門性を高めるための取組も並行して進める。

学力向上推進委員会

- ・学力調査分析
- ・家庭学習の定着
- ・基礎学力向上の取組



※ 校内研究推進委員会

月に1回開催し、研究の進捗状況の交流や今後に向けて話し合う。
・構成：校長・教頭・教務主任・研究主任・研究委員(各学年)

➤ 学年部会による取組

○「学年学習集団づくりプラン」を意識した授業改善（ポイント2参照）

○授業のない時間（空き時間）の有効活用

授業のない時間を「すきま校内研究」として位置付け、学年の教員の授業を参観し合う。

○校内研究会による授業研究会（各学年1回）

学年の教員による事前検討会で、何度も検討を重ねた授業で、授業研究会を実施する。

学年教員による
事前検討会

学年で交流

代表者の
研究授業

全職員が参観

校内全体での
事後検討会

学年・教科を超えた交流

➤ 教科部会による取組

○教科による研究テーマの設定と個人目標の設定

個人の目標は、職員全体に共有し、どのような視点で授業に取り組んでいるのかを理解した上で、互いの授業を参観できるようにする。

○1人1指導案による全員の授業公開

- ・同じ教科の教員全員が公開授業を参観する。
- ・事後の検討会は教科部会で行う。

個人目標を意識
した授業検討

指導案の作成

1人1指導案
公開授業

同じ教科の同僚・管理職・
研究主任が参観

教科部会での
事後検討会

同じ教科の同僚と交流
(+研究主任)

ポイント2

生徒理解につながるPDCAサイクルの取組

○「学年学習集団づくりプラン」の更新(1・2・3学期)

①プランの作成

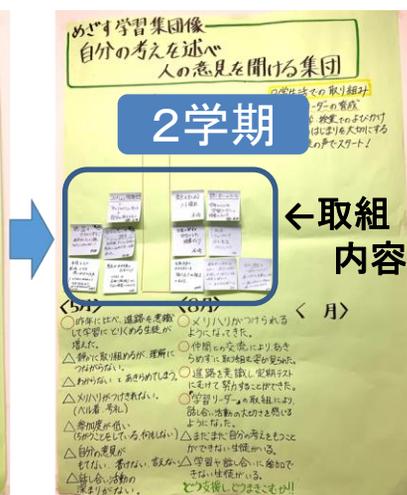
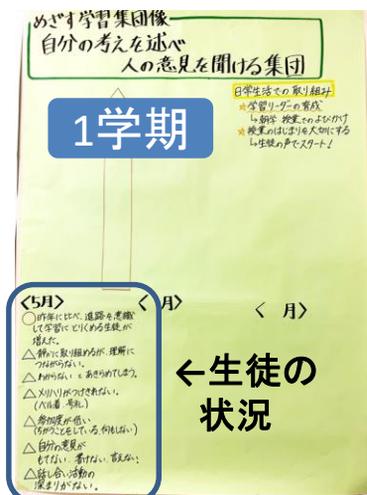
各学年の実態を踏まえて、「めざす学習集団像」のゴールイメージをもつ。

課題と今後のビジョンを共有し、取組内容を決める。

②取組の検証・改善

「めざす学習集団像」に向け、取り組んだ内容を交流する。

また、生徒の変容を確認して現状を捉えなおし、次学期に向けた力点や取組の共有を図る。その上で、個人ができることについて考える。



基礎・基本を身に付けるための

	長浜市立虎姫中学校
学級数	7学級
生徒数	131名



生徒の実態を踏まえ、目的に合わせた効果的な活用を工夫しています。

教師が、ガッテンプリントの内容を確認し、目的に合わせて、授業の中で計画的に活用しています。

活用したい効果的な取組

目的を明確にしたガッテンプリントの活用

- ・ 学習の基礎・基本の定着を図る時間を7校時（10分間）に設定し、毎日継続した取組
- ・ 授業の内容に合わせた、既習内容の復習や確認としての活用

ドリームプロジェクトでの活用 基礎・基本の定着

基礎・基本の定着を図りたいなあ。



毎日7校時 10分間

各教科、ドリル等で基礎・基本の定着のための学習の時間として、毎日7校時（10分間）を「ドリームプロジェクト」と位置付け、継続的に取り組んでいます。

国語科と数学科においては、生徒の課題に応じたガッテンプリントを用いて行っています。

短時間だけど、毎日続けているから、学習したことがしっかり身に付いています。



授業での活用

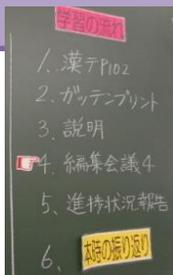
既習事項の確認

今日の授業につながる既習内容を、確認したいなあ。



授業の導入

ガッテンプリントで既習内容を確認し、全員が本時の学習に取り組みやすくしています。また、学習後の確かめにも活用できます。



授業の終末



少し易しい課題で習ったことを思い出してから、授業の問題に取り組むのでわかりやすいです。



計画的なガッテンプリントの活用

	甲賀市立油日小学校
学級数	8学級
児童数	150名



子どもの「できた!」「わかった!」まで見届ける指導を心がけています。

補充学習の時間を使って、児童の課題に応じた内容のガッテンプリントに、計画的に取り組んでいます。間違ったところの直しまで、ていねいに行っています。

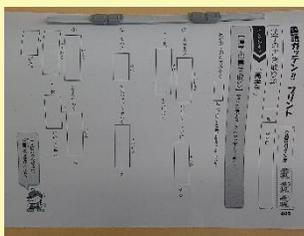
活用したい効果的な取組

PDCAサイクルを踏まえた取組の設定

- ・全国学力・学習状況調査から明らかになった課題を全校児童の課題として取り上げた改善の取組
- ・ガッテンプリントの活用を取り入れた、補充学習時間の計画
- ・児童の「できた!」「わかった!」までの指導

A (改善)

間違いを直します。
直しが終わったガッテンプリントは、ファイルにとじます。学習の足跡を残すことで、自分の課題を確認しやすくなります。



P (計画)

ガッテンプリントも活用し、補充学習の時間「パワーアップタイム」での、自分の課題改善に向けた取組の計画を立てます。

(例)

- ・全国学力・学習状況調査で明らかになった、自校の課題「読むこと」の領域の内容
- ・漢字の意味を理解して活用する力を付ける内容

	1週目	2週目	3週目	4週目	5週目
10月	自主学	ガッテン	自主学	作文	点検
11月	自主学	作文	ガッテン	点検	
12月	自主学	ガッテン	自主学	点検	
1月		ガッテン	作文	自主学	点検
2月	作文	自主学	ガッテン	点検	
3月	作文	ガッテン			

※補充学習の時間「パワーアップタイム」
毎週水曜日の2校時と3校時の間の時間(15分)

D (実施)

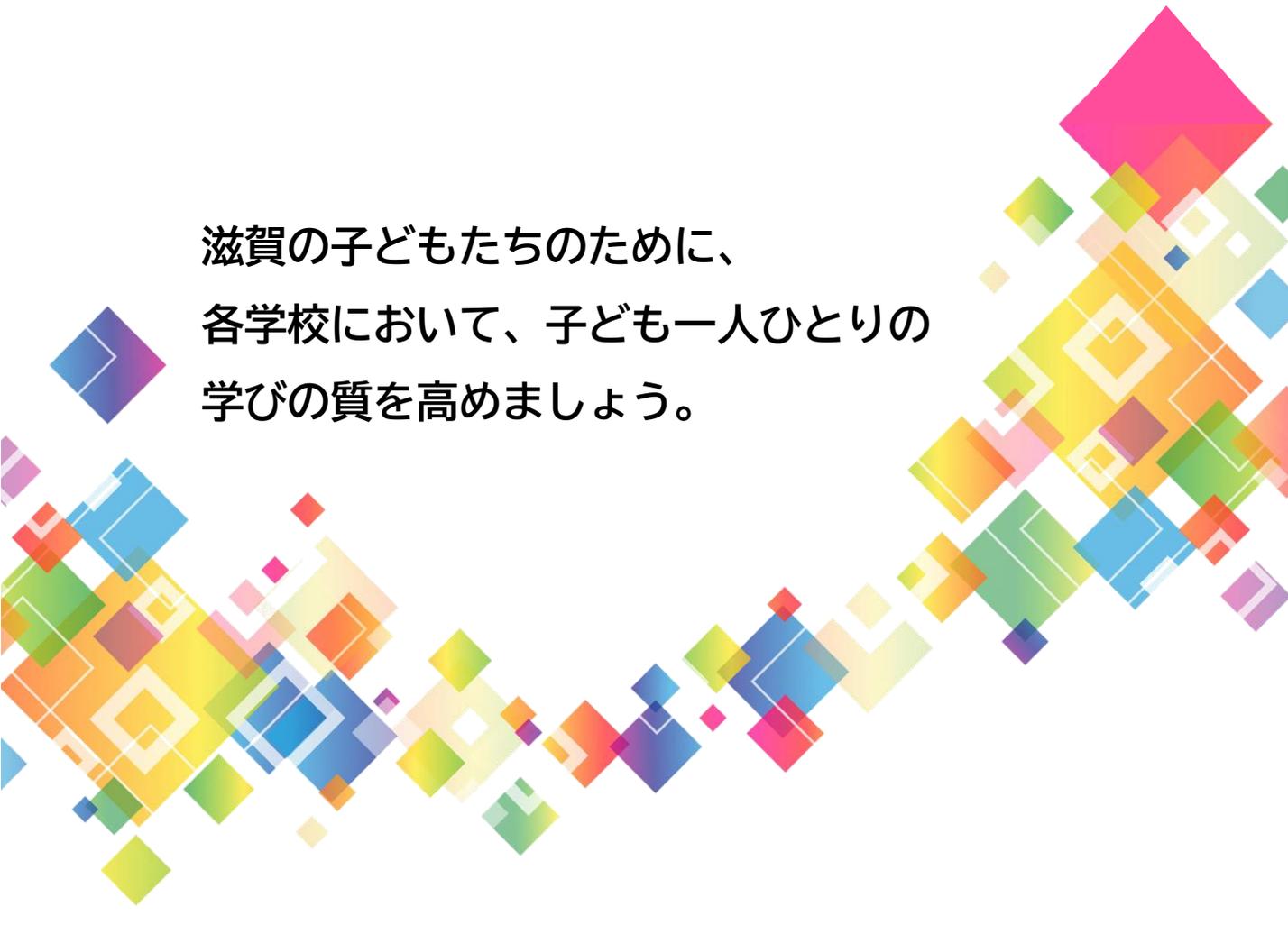
「パワーアップタイム」や家庭学習でガッテンプリントに取り組めます。

令和元年度作成のガッテンプリントは、全て印刷し配付しました。



C (検証)

実施後すぐに、担任だけでなく、全校体制で丸つけを行い、定着を確認します。



滋賀の子どもたちのために、
各学校において、子ども一人ひとりの
学びの質を高めましょう。